

1.5 ベクトル場のベクトル微分演算 (問題)

1.5.1 以下の恒等式を導出せよ:

(a) $\nabla \cdot (\mathbf{A} \times \mathbf{B}) = \mathbf{B} \cdot (\nabla \times \mathbf{A}) - \mathbf{A} \cdot (\nabla \times \mathbf{B})$;

(b) $\nabla \times (\nabla \times \mathbf{A}) = \nabla(\nabla \cdot \mathbf{A}) - \nabla^2 \mathbf{A}$;

(c) $\nabla(\mathbf{A} \cdot \mathbf{B}) = (\mathbf{B} \cdot \nabla)\mathbf{A} + (\mathbf{A} \cdot \nabla)\mathbf{B} + \mathbf{B} \times (\nabla \times \mathbf{A}) + \mathbf{A} \times (\nabla \times \mathbf{B})$.

1.5.2 $\mathbf{A}(\mathbf{r})$ が渦なし場するとき、 $\mathbf{A} \times \mathbf{r}$ はソレノイダルであることを証明せよ。

1.5.3 剛体が、座標原点を通る軸のまわりを一定の角速度 $\vec{\omega}$ で回転している。このとき剛体内のあらゆる点 \mathbf{r} における速度 \mathbf{v} は、方程式

$$\mathbf{v} = \vec{\omega} \times \mathbf{r}$$

で与えられることを証明せよ。また

(a) \mathbf{v} はソレノイダルである ;

(b) $\nabla \times \mathbf{v} = 2\vec{\omega}$; そして

(c) $\nabla(\vec{\omega} \cdot \mathbf{r}) = \vec{\omega}$.

についても証明せよ。

1.5.4 直交座標系において、反発力 $\mathbf{F} = k\mathbf{e}_r/r^n$ の発散を計算せよ。また $n=2$ のとき、 $\mathbf{r}=0$ 以外の場所でこの力はソレノイダルであることを証明せよ。最後に、この種の力はすべて渦なし場であることを証明せよ。

1.5.5 $\mathbf{B}(\mathbf{r})$ が渦なし場であり、かつソレノイダルでもある時、定ベクトル \mathbf{m} に対して

$$\nabla \times (\mathbf{B} \times \mathbf{m}) = \nabla(\mathbf{B} \cdot \mathbf{m})$$

となることを証明せよ。

1.5.6 直交座標を用いて $\nabla \cdot \mathbf{e}_r = 2/r$ および $\nabla \times \mathbf{e}_r = 0$ を証明せよ。